

組立作業手順



Push-in式

該当機種

●プラグ



- ・CC-Link用：**PCA-1075526**
- ・DeviceNet[®]用：**PCA-1075528**
- ・PROFIBUS DP用：**PCA-1075530**

●ソケット



- ・CC-Link用：**PCA-1075527**
- ・DeviceNet[®]用：**PCA-1075529**
- ・PROFIBUS DP用：**PCA-1075531**

結線

CC-Link

端子No.	ロックレバー色	電線色	信号名
1	灰	(シールド)	SLD
2	白	白	DB
3	黄	黄	DG
4	青	青	DA

DeviceNet

端子No.	ロックレバー色	電線色	信号名
1	灰	(シールド)	DRAIN
2	赤	赤	V+
3	黒	黒	V-
4	白	白	CAN H
5	青	青	CAN L



端子No.	ロックレバー色	電線色	信号名
1	-	-	-
2	緑	緑	A Line
3	-	-	-
4	赤	赤	B Line
5	-	-	-

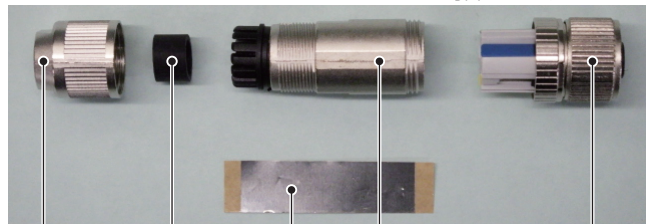
準備するもの

- ・ケーブルの被覆を剥くストリッパー(推奨)
(フェニックスコンタクト(株)社製 WIREFOX-D 11(1212160))
- ・電線の被覆を剥くストリッパー(推奨)
(フェニックスコンタクト(株)社製 WIREFOX 2,5(1212368))
- ・シールド線をカットするニッパー(推奨)
(フェニックスコンタクト(株)社製 MICROFOX-SP(1212488))

部品構成

開封時にご確認ください。

※：写真はソケットタイプです。

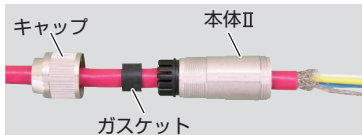


キャップ ガスケット シールド線用シール 本体II 本体I

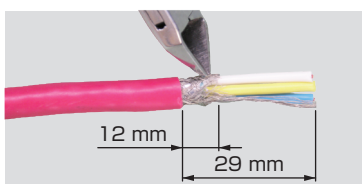
組立手順

※：写真はプラグタイプです。

1 ケーブルにキャップ、ガスケットと本体IIを通します。

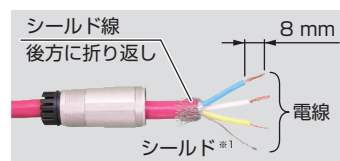


2 ケーブルの被覆を剥きます。電線は29 mm、シールド線は12 mm残します。



組立手順

3 シールド線を一時的にケーブル後方に折り返します。電線の被覆を8 mm剥き、必要に応じて電線端子(フェールル)を圧着します。



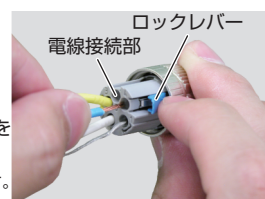
※1：CC-Link、DeviceNet[®]の場合

- ・棒端子(フェールル)(推奨)
(フェニックスコンタクト(株)社製 AI 0,14-8 GY-1000 (3203011))
使用電線断面積 0.14 mm² (AWG26相当)
- ・棒端子(フェールル)(推奨)
(フェニックスコンタクト(株)社製 AI 0,25-8 YE (3203037))
使用電線断面積 0.25 mm² (AWG24相当)
- ・棒端子(フェールル)(推奨)
(フェニックスコンタクト(株)社製 AI 0,34-8 TQ (3203066))
使用電線断面積 0.34 mm² (AWG22相当)
- ・棒端子(フェールル)(推奨)
(フェニックスコンタクト(株)社製 AI 0,5-8 WH (3200014))
使用電線断面積 0.5 mm² (AWG20相当)

- ・棒端子(フェールル)を圧着する工具(専用)
(フェニックスコンタクト(株)社製 CRIMPFOX CENTRUS 10S (1213154))

4 本体IIに電線を接続します。

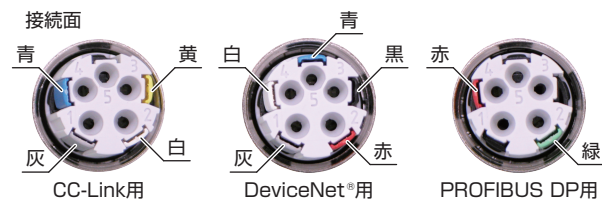
ロックレバーをゆっくり引いてください。ロックレバーが止まり位置に達したら、それ以上は引かないでください。*2 電線接続部に導体が見えなくなるまで電線を挿入します。



※2：過度な力を加えると破損する恐れがあります。電線を挿入後に、ロックレバーを押して戻します。CC-Link、DeviceNet[®]の場合は、シールド*1を端子No.1(灰色)に挿入します。

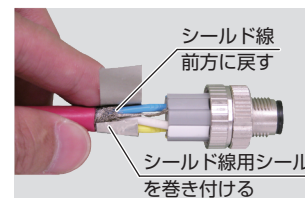
棒端子(フェールル)付の場合、そのまま挿入できます。

接続面は接続する電線によって配線色があらかじめ表示されています。(左記、結線参照)

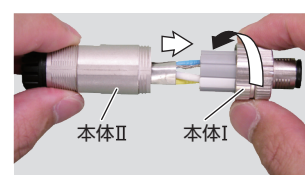


5 シールド線をケーブル前方

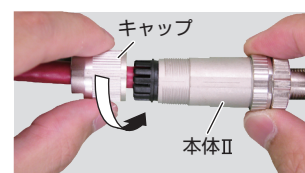
に戻し、付属のシールド線用シールを巻きつけ、まともめます。(このシールを介して、ケーブルのシールド線と金属筐体が接続されます。)



6 本体IIを本体Iに引き寄せます。本体Iを本体IIにねじ込みます。推奨トルク値：0.8 N・m



7 キャップを本体IIに締付けます。推奨トルク値：3.0 N・m



完成後、ケーブルを軽く引っ張り緩みなどないか確認します。

取扱い上のお願い

- ・本来の目的以外に使用しないでください。
- ・コネクタの抜き差しは通電しない状態で行ってください。
- ・濡れた手での作業は感電の原因となります。
- ・修理等は絶対に行わないでください。
- ・ロックレバーを引く時にマイナスドライバー等の工具を使用すると、ロックレバーに過度な力が加わり破損する恐れがあります。

SMC株式会社

URL <https://www.smcworld.com>

この内容は予告なしに変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
DeviceNet[®] is a registered trademark of ODVA, Inc.
本取扱説明書掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標として使用している場合があります。
© 2018-2022 SMC Corporation All Rights Reserved

No. EX※※-OMW0004-B